

【事業実績】

取組①

京都・大学ミュージアム連携+による「京都の伝統」発信プロジェクト

2019年8月28日～12月7日



◇シンポジウム：京都・大学ミュージアム連携国際シンポジウム

「京都の近代化と伝統の形成—歴史資料の保存と活用」

2019年9月21日（土） @京都工芸繊維大学 60周年記念館 1階ホール



シンポジウムにおいては、ハーバード大学の事例を紹介するほか、近代京都の産業・文化において重要な役割を果たした高島屋と島津製作所および近代に成立をした大学の事例を示したうえで、ディスカッションを実施した。京都で制作された図案集の海外での受容実態やその保存方法などについて聴衆からの質問もあり、充実したシンポジウムとなった。

◇「京都の伝統」発信展覧会ネットワーク

a 「現代京都の名工」@嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学附属博物館

京都の伝統工芸を支える5名の工芸家を招き、その作品を紹介するとともに、ワークショップを実施した。ワークショップ参加者は、伝統の墨守にとどまらず、あらたな展開にチャレンジする工芸家の試みを体験することができた。



b「文化財ドック in 京都外大 匠のわざと社寺建築」@京都外国語大学国際文化資料館

社寺建築など文化財保存修復にかかわる異業種複数業者が1960年に創設した文友会と連携して、文化財を守るための多様な「わざ」の紹介につとめた。今回は、ICOM 京都2019に参加した海外の美術館・博物館関係者が参加したため、京都の伝統的な「わざ」の保存と継承について、ひろく海外に知らせることができた。



c「図案家の登場—近代京都と染織図案Ⅲ」@京都工芸繊維大学美術工芸資料館

近代京都の重要産業である染織の図案を制作した図案家の活動に注目をして、その作品だけではなく、教育機関による図案教育の実態や制作のプロセスなどを、展示を通して明らかにした。また、会期中にシンポジウムを開催し、東京における図案の意味、図案家の位置と京都のそれとの相違を浮かび上がらせることができた。



d「洛中洛外図屏風を愉しむ—絵画資料に親しむ方法の開発—」@京都大学総合博物館

17世紀はじめに当時の京都のまちの様子を生き生きと描いた洛中洛外図（舟木本、東京国立博物館蔵）を題材として、凸版印刷株式会社との連携により、詳細に分析したコンテンツを高精細画像で見ることができるシステムを構築し、それを紹介して、文化財活用の一事例として提示した。



e「掛図と標本—美術工芸学校の教材」@京都市立芸術大学芸術資料館

明治・大正期の美術・図案教育の実態を、京都市立美術工芸学校（京都市立芸術大学の前身校）で使用された



教材としての掛図や標本を展示することにより示し、京都の伝統として肉筆資料による近代的な教育を継承している様相を明らかにした。

f「大嘗祭」@京都産業大学ギャラリー

2019年は、新天皇の即位と大嘗祭がおこなわれるため、これまでの大嘗祭を記録した絵画を参考に、復元的な再現展示を試み、伝統的な儀式の場で、京都の「わざ」の蓄積が生かされていることを示した。新聞などでも大きく取り上げられ、人びとの関心が高いことがわかった。



◇新聞掲載：2019. 10. 14. 毎日新聞、10. 16 京都新聞、10. 17. 朝日新聞、11. 06. 染織新報、11. 19. 読売新聞、11. 22. 中外日報

◇テレビ放映：2019. 11. 13. KBS 京都「news フェイス」、11. 15. 読売テレビ「ミヤネ屋」

g「中世末期の京—洛中洛外図屏風の世界を掘る」@ハリス理化学館同志社ギャラリー

d 展との関連で、洛中洛外図（町田本）の摸本を中心に、京都での発掘資料を多く展示することにより、考古学的な切り口から京都の伝統文化を示した。



取組②

ICOM2019 京都大会 京都・大学ミュージアム連携ブース@国立京都国際会館

ICOM 京都大会に専用ブースを設置して、映像・パネルでこれまでの活動内容を示したほか、加盟大学から語学の堪能な学生をアルバイトとして雇用し、常時 2 名体制で事業の説明をおこない、連携の活動とともに、京都文化の国際的な発信をすることができた。

